

官公署における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
1999	5	19 ～ 20	ドラグショベルに付けた排土板で町道の整地作業を行なっていたときに、路肩から誤って転落し、運転席と樹木との間に頭部を挟まれた。	142	1	10～ 29
1999	7	15 ～ 16	ごみ収集車(パッカー車)の車両点検で、荷箱とテールゲートの接合部の点検をするためテールゲートを上昇させているときに、テールゲートが急に落下し、荷箱とテールゲートとの間に頭部を挟まれた。	229	7	1000 ～ 9999
2000	12	11 ～ 12	安全衛生委員会に出席する同僚職員を迎えに行くため車で走行中、警報機だけの踏切に差し掛かったところでレールバスと衝突した。	232	18	10～ 29
2000	3	10 ～ 11	90CCのバイクで郵便物の集配中、国道交差点でトレーラーと接触、転倒して下敷きになった。	221	17	300 ～ 499
2000	2	11 ～ 12	テニスコート斜面の草刈り作業において、休憩後、現場までの約50mを移動中に傾斜角30度のコンクリート斜面上でスパイク足袋のスパイクが滑って転倒し、斜面を約4m滑落したあと約1.6m下の同コート面に墜落した。	418	1	10～ 29
2001	12	13 ～ 14	郵便物を配達するためバイクで県道を走行中、交差点で対向車線から右折してきた乗用車にはねられた。	231	17	50～ 99
		8	職員4名を乗せた軽ワゴン車で国道を走行中、センターラインをはみ出し			50～

2002	6	9	た対向の乗用車と衝突し路外へ転落した。	231	17	99
2002	6	9	8 軽ワゴン車に4名が乗って国有林の収穫調査（売却する立木を選定する作業）を行うため国道を走行中、センターラインをはみ出した対向の乗用車と衝突し路外へ転落して3名が死亡した。	231	17	50～ 99
2002	6	9	8 軽ワゴン車に4名が乗って国有林の収穫調査（売却する立木を選定する作業）を行うため、国道を走行中、センターラインをはみ出した対向の乗用車と衝突し路外へ転落して3名が死亡した。	231	17	50～ 99
2002	6	9	8 軽ワゴン車に4名が乗って国有林の収穫調査（売却する立木を選定する作業）を行うため、国道を走行中、センターラインをはみ出した対向の乗用車と衝突し路外へ転落して3名が死亡した。	231	17	50～ 99
2002	9	14	13 公園内に設置されていた高さ3.4mの藤棚の上で、藤の剪定作業を行って藤棚の端部から地上に転落した。	418	1	300～
2005	8	15	14 建物天井部分のはつり作業後、作業用具片付けのために階段を下りていたところ意識を失い、階段から踊り場に転落した。	413	1	100～ 299
2006	3	17	16 公用車を1人で運転し、埠頭内の巡回をしていたところ、埠頭東側で逸走し、海中へ転落した。路面はアイスバーン状態であった。	231	1	10～ 29
2006	9	11	10 被災者は県道においてガードレールの補修作業に従事していたところ、走行中の大型トラックにはねられた。	221	17	100～ 299
2010	1	10	9 県の嘱託職員が川岸に設置された量水標の水位表示を確認するため、デッキブラシで表示部を清掃しようとしていた際に、川岸の斜面で積雪に足を滑らせて水中に転落し溺死したものの。	713	10	1～9
			草木を除伐する作業を、被災者ほか2名の作業員が行っていた。被災者			

2013	2	15 ～ 16	は、上部が枯れた桜の木をチェーンソーを用いて伐倒したところ、電柱を支えるワイヤーロープに伐倒した木が引っ掛かり宙づりとなった。そのため、被災者は宙づりとなった木を地面に落とすため、移動はしごに上り、手のこを用いて木を切断したところバランスを崩して移動はしごから墜落した。	371	1	50～ 99
2018	11	8 ～ 9	はしごを使用して樹上（ナナミの木）に登り、ミニチェーンソーを用いて剪定作業を行っていたところ、枝上に座っていた被災者が後方に倒れ、約6メートルの高さから墜落、死亡した。保護帽、安全帯は着用していなかった。	712	1	1～9
2018	8	12 ～ 13	被災者は、農業用水路の維持管理業務を行っていた。被災当日の午前中、1人で刈払機を使用して用水路の周りの野山の草刈り作業を行っていたが、当日の夜、家族から被災者が自宅に戻っていないとの連絡を受け、捜索を行ったが見つからなかった。翌日の明け方、草むらに仰向けに倒れているところを発見されたが、既に死亡していた。外傷なし。被災当日の被災場所の午前中の気温は23度から26度。	715	11	10～ 29
2019	7	14 ～ 16	遺跡発掘調査のため、床掘りを3名で行っていた。被災者が手掘りスコップで作業を行っていたところ、掘削面（深さ約2.3m）の最大奥行約0.9m、幅約6.3mの土砂が垂直に剥離崩壊し、土砂に埋もれたもの。崩壊前の掘削面の勾配は目測でほぼ垂直であった。	711	5	1000 ～ 9999

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。